

本物志向のリトルチャイナin南京町

あなたの知らない新しいチャイナ、150年の歴史をこの目で

神戸の南京町は、今年で生誕150年を迎え、横浜中華街・長崎新地中華街とともに日本三大チャイナタウンの一つに数えられています。東西約270m、南北110mの範囲に100あまりの店舗が軒を連ねる南京町。中国のイメージを強調したその町並みは、神戸にいながらにして、五感で歴史を感じることができる場所です。

神戸市のダイバーシティ(多様性)の源流は、南京町



神戸にしかない“雑居地”が作りあげた神戸独自の多様性を認める文化

横浜中華街・長崎新地中華街とともに日本三大中華街の一つである神戸市の南京町は、1868年(慶応3年)の神戸港開港がきっかけで誕生したと言われています。

開港当時の中国(清)は、日本と国交条約を結んでいなかったため、中国人は外国人居留地(外国人のために住居・営業を認めた指定地域)に住むことができず、雑居地(外国人と日本人が雑居することを認められた地域)で暮らしていました。神戸の雑居地は居留地の造成が遅れたため、政府が臨時的措置として設定したもので、雑居地に住んでいた外国人の数は他の開港地に比べると、神戸は群を抜いて多かったのです。

この雑居地で、中国人が雑貨商、豚肉商、飲食店などを始めたことが南京町のはじまりとされ、中国人だけでなく、日本人も商いをし、さまざまな国の人たちが食材を仕入れに南京町を頻りに訪れていました。

このように、“雑居地”を通じて、異文化が混ざり合い、さまざまな国の文化と人々の交流が行われ、神戸独自の多様性を認める文化が形成されていきました。神戸の街には、今でも、南京町をはじめ、教会、モスクなどの世界各国の宗教施設や異人館などの建物が数多くあり、さまざまな国の方が暮らしています。多様な文化が共存しているなかで、南京町は「多様性」の一つの象徴と言えます。

空襲や震災を乗り越え、中国人と日本人がともに歩んできた150年

世界中のチャイナタウンの多くが閉鎖的なコミュニティの中に形成される傾向にありますが、南京町では、前述したように開港当時から日本人と外国人が並びあって住み、商いをやってきました。

そのなかで、1945年(昭和20年)に起きた神戸大空襲や、1995年(平成7年)に起きた阪神・淡路大震災などによって、南京町は全焼や半壊などの被害を経験しました。度重なる試練や節目があるたびに、日本人と中国人が一丸となって、まちのにぎわいを取り戻すための策を練り実行しています。そのような日本人と中国人との深い関わりが、現在の南京町につながっています。

南京町生誕150年に向けて

2018年は、南京町生誕150年という記念すべき年です。現在の南京町は、中華料理店・食材店・雑貨店など100店舗以上が軒を連ねています。店主は、今でも中国人と日本人がほぼ同数です。地元商店街のベテランも若者も一致団結して、さらに魅力的な南京町づくりにつとめています。

そして南京町生誕150年記念事業には、南京町のみならず、神戸市内のさまざまな地域の人々が参加し、盛り上げようと活動しています。その姿こそ、多様性を受け入れ、楽しむ、神戸の象徴とも言えます。



生誕150年の今年は、さまざまなイベントが目白押し！ 大人の雰囲気漂う夜の南京町イベント

長安門がライトアップ！異国情緒あふれるチャイナタウン



夜になると温かな光に包まれ、幻想的な雰囲気になる南京町。
2018年3月、南京町生誕150年を迎え、長安門のライトアップが照明デザイナー・長町志穂さんのプロデュースにより、リニューアルされました。春節祭は赤、海の日には青など、LEDによる8色ものバリエーションが楽しめます。

あたたかなランタンの光に包まれる「ランタンフェア」も開催

南京町では「中秋節」「興隆春風祭」など震災以降に始まったイベントも多く、季節ごとに様々なイベントが開催されています。



そのうちのひとつが「ランタンフェア」。
毎年12月に行われる「神戸ルミナリエ」の点灯前日からクリスマス頃まで開催されています。
「ルミナリエが西洋の光なら、南京町は東洋の光でもてなそう」と南京町商店街振興組合が企画し、南京町を代表するイベントのひとつとなっています。

メインストリートを中心として、町中に中国提灯がずらりと並び、あたたかな光で中国情緒を演出します。
また、南京町広場の中央にあるシンボル「あづまや」を装飾し、初日には点灯式が行われます。2017年12月より、400ものLEDを装飾しリニューアル。今後も様々な行事でライトアップを予定しています。

珍名所？南京町のトイレ

南京町の中に商店かと思ってしまうほどの、ひときわ目立つ豪華絢爛な建物があります。
それは誰でも使えるお手洗い「臥龍殿(がりようでん)」！とてもトイレには見えないこの場所も南京町の珍名所となっています。



建物正面の金色に輝く「臥龍殿」という文字は作家の故 陳舜臣(ちんしゅんしん)氏が書いたという堂々たる外観。



トイレまで中華街の雰囲気を味わってみたいというおもてなしの心のあらわれ。
男性用・女性用の各扉にも龍の彫刻が施されています。台湾にわざわざ出向いて調達したという調度品は一見の価値あり！